

## 2022年度九州体験学習 参加者感想文

✚ 済州高校2年 チョ・スルへさん

大会で入賞し、嬉しい気持ちで九州に行く日だけを待ちわびて、ついに到着した日本！

初日には、LINEで連絡を取りあっていたホストファミリーの天音の家族に会った。天音と天音の妹である果音の第一印象は、とても大和撫子のように、静かなイメージだった。父の大介さんは、とても愉快で明るいイメージだった。そうして初日の日程が終わってファミリーの家に行った。韓国の住宅とはあまりにも違う日本の住宅の姿に本当に驚いた。庭園はきれいによく整えられ、玄関の土間から床までが高く、そして部屋の床が畳だった。学校で畳の部屋について学んだ時は、少しざらざらして痛いのではないかと想像したが、実際に踏んでみた畳は、むしろ韓国の床よりふわふわした感じだった。そして、ファミリーの配慮のおかげで、先にお風呂に入ることができた。韓国とは違って、トイレと浴室が別々に分かれていて楽だった。さらに浴槽は、水を循環させ続け、温度を維持する装置が設置されていた。韓国でも、このような装置があれば、多くの人が入浴文化をもっと楽しめるのではないかと考えた。

2日目には、みんなで宇佐神社に行った。漫画や映画、ドラマでしか見たことのない神社の赤い鳥居を実際に見た。神社ごとに鳥居が一つだけあるのかと思っていたが、一つの神社にいくつかの鳥居が建てられていた。神社に行ったら必ずやってみたくて楽しみにしていた、小銭を投げ入れて手を叩くお祈りもした。願い事が多くて長く祈っていたら、天音から「願い事がたくさんあるんだね」と言われ、少し恥ずかしかった。そして神社といえば欠かせないお守りを買った。宇佐神社の代表的なお守りである、何でも叶うというお守りを母へのプレゼントに、学業成就のお守りを自分へのプレゼントに買った。神社から帰る途中で、速く走る子イノシシも見物し、唐揚げを買ってハーモニーランドに出発した。ハーモニーランドで楽しく遊んだ後、家に帰ってきた。温泉に行かないかと誘われ、その日の夕方、家の近くの温泉に行った。温泉の形は、韓国の大衆浴場と似ていたが、水から香ばしい香りがした。

3日目には、石仏を観光して寿司屋に行った。韓国で食べた寿司よりずっと歯ごたえがあって新鮮な刺身が出てきた。大介さんの話では、海の近くの寿司屋なので、刺身が新鮮とのことだった。寿司もいっぱい食べて、目的地の湯布院に出発した。福岡の観光名所である湯布院通りを見物しながらいろいろな店を見て回った。かわいいジブリのギフトショップからミッフィーショップ、スヌーピーショップまで、本当に多様なお土産店があった。ホテルに帰り、一緒に1階のゲームセンターで卓球に熱中して、夜明けまで「UNO」と「人生ゲーム」をしながら、とても親しい間柄になった。

そうして最後の夜が過ぎ、ホームステイ最後の日程が始まった。天音と果音と一緒にプリクラを撮り、うみたまごを観覧した。そこで一番印象深かったのは、イルカ水族館とあそび一ちだった。そして、次の日程のためにホストファミリーと別れる時、絶対泣かないように頑張ったが、結局涙がにじんでしまった。元々の性格が感情的な方ではないので、天音と別れるのは悲しくないと思ったが、いざ時間が近づくととても残念で、再び会えないのではないかと寂しかった。涙を見せたくなくて笑いながら挨拶を交わした。しかし、車に乗るやいなや突然悲しみが押し寄せて泣いてしまった。ホームステイで人との縁が本当に大切だということを心から学んだように思う。その後、いろいろな日程があったが、一番記憶に残るのは、東明高校体験だった。日本で学校に通うのが自分の夢だったが、短い時間、学生のように一緒に授業を受ける時間が、とても楽しくて新しい経験になった。

私は、今回の日本語スピーチ大会で入賞という良い結果をおさめ、私と他3名と共に日本に行く機会を得た。初めて海外旅行に行くので、よりワクワクすると同時に緊張した。私たちは、済州国際空港から釜山(金海)国際空港を経由して福岡空港に到着した。福岡空港に到着して、一番驚いたのは、日本のトイレについてだった。日本のトイレはとても清潔で、すべての便器にウォッシュレットが設置されていた。

空港を出てから私たちは、中型ワゴン車に荷物を積んで、3時間ほど走って大分県の食堂に到着した。10分ほど待っていると、これから3日間を一緒に過ごすホームステイ先の家族が到着した。一緒に食事をしながら1時間ほど会話をした後、家に向かった。家に着いて、日本の伝統的な家屋の特徴を感じた。畳の部屋とリビングのこたつ、そして一番印象深かったのは、家の近くにJRの駅があり、家の中から電車の音が小さく聞こえることだった。その点が一番興味深かった。ホームステイの初日には、史弥さんと大分駅の近くを見て回った。ここで驚いた点は、韓国と違って車線が反対だということと、信号が変わる時に出る音がかなり独特であることだった。私は史弥さんと一緒に大分駅近くのデパートでお土産を買った。そして史弥さんのお母さんと会って大分にあるお寺に行ってたくさんの仏像を見た。それから、夕方に温泉に家族と一緒にいってお風呂に入った後、回転寿司屋に行った。そこで驚いたのは、回転寿司の鮮度だった。それは、一度回った寿司は、すぐ廃棄処分になるということだった。私たちは食事を終えて家に帰った。家に帰って史弥さんと私はPS4でサッカーゲームをした。操作方法が難しかったが、少ししたら慣れてきて、10試合くらいプレイしたと思う。

ホームステイ2日目には、大分にあるドンキホーテに行った。そこで私は、たくさんの食べ物を買った。その後、近くにある神社と、城の形をした博物館に行った。侍の剣があってとても興味深かった。その後、高崎山自然動物園に行ってたくさんの猿を見た。多くの猿が自由に歩き回る姿が、非常に新しい経験であり、触れることはできなかったが、近くで猿たちを見られるのが本当に不思議だった。見物を終えた後、大分のホテルの中にある温泉に行った。そこで温泉を楽しんだが、初めて温泉に入ったためか、とても不思議だった。外の天気はとても寒かったが、実際にお湯に入るととても良かった。史弥さんのお父さんが、「いい湯だな」と言い、最初はその意味が分からなかったが、後で調べて「いい湯だな」という意味であると知った。実に共感できる言葉だった。温泉を楽しんだ後、私たちは家で自分たちでたこ焼きを作った。家にたこ焼き機があるのがとても不思議だった。我が家にも、こんな機械があったらいいなと思った。初めて自分でたこ焼きを作ってみたが、とてもおいしかった。

ホームステイの3日目には、朝早く起きて家の近くの公園で凧を上げた。凧をあげながら、今日がホームステイ最後の日だということを実感した。凧をあげてみんなで家の前で写真を撮った。それから昼食にラーメン屋の一蘭でラーメンを食べた後、うみたまご水族館に行った。そこで、セイウチ、アシカ、アザラシなどの海の動物をはじめ、大分に生息する大型のサメやエイなど90種類の海の生物を見物した。そこで一番印象深かった場面は、イルカショーだった。イルカたちが、まるで人の言うことを理解するかのように、正確な行動と表現をした。調教師のスキルが素晴らしかった。水族館の観覧を終えた後、ホストファミリーと一緒に他のホストファミリーがいるところに集合した。そこで解散した後、ホテルのチェックインをした。1月10日火曜日には、大分県にあるAPU大学を見学した。ここで驚いたのは、かなりの規模の建物とさまざまな人種の学生たちだった。そこで私たちは、茶道体験をし、初めての茶道体験なので緊張したが、実際にやってみると面白かった。1月11日水曜日には、大分向陽中学校と大分東明高校に見学に行った。たくさんの日本人学生がいて不思議だった。私は、向陽中学校の生徒たちの前で、スピーチ大会の時のスピーチをもう一度発表した。思ったより、中学校の生徒たちの反応がよくて、追加でピアノも弾いた。かなり印象深い日だった。また、APU大学と見学先の中・高等学校で通訳をしてくださったAPU大の学生の方に感謝する。私たちは、ホテルの宿泊チェックインをした。

1月12日木曜日は、本当に一日があっという間だった。ずっと車と飛行機で移動したが、初めて体験したこともたくさんある一方で、体験できなかったこともあり残念だった。6泊7日が、こんなに短く感じられたのは初めてだった。次も、このような機会があれば、ぜひ参加するつもりだ。今まで助けてくださった日本語の先生、2022年度九州体験学習関係者の皆さん、ホストファミリーの方々に感謝する。

## 🌸 南寧高校3年 チョン・スンユンさん

今回の九州体験学習は、私にとって全てが新しい経験だったので、より楽しく、幸せだったように思う。最初は、ホームステイをしながら、ちゃんと会話ができるか心配だったが、思ったよりも家族の方々の話すことを聞き取れて、私が話す時にも大きな困難がなかったようで、日本語に対する自信を持てるようになり、何よりも韓国に関心の高い友達と3日間、お互い交流しながら、韓国と日本の共通点や違いについて理解することができた。

日本の家庭は、便器と浴槽が別々に分かれていて、家族が順番に浴槽に入って入浴するので、浴槽の水の温度を維持してくれる装置があり、家に床暖房がないので、韓国より家が寒いということも知った。実は、第二外国語の授業の時間に、すでに習っていたことではあったが、実際に浴槽やこたつを使ってみると本当に不思議だった。日本人の友達と一緒に城島高原という遊園地に行ってみたり、湯布院という街で美味しい屋台料理を食べてみたり、神社に行ってお年の運を試してみたりした。3人とも大吉が出たが、内容が違って不思議だった。YouTubeでしか見たことのない日本のカメラで写真も撮った。韓国と違って目、鼻、口が補正されたものが出てきて驚いた。家に帰ってからは、家族と一緒にたこ焼きを作って食べた。

翌日は、ホストファミリーの両親と日本の成人式を見物しながら、近くで着物を着た人たちの姿を見ることができた。最近では、必ずしも着物に草履を履くのではなく、黒いブーツを履いてシックなイメージを出す人もいることが分かった。着物に毛でできたマフラーを羽織った人が多かったため、お母さんに聞いてみたら、昔はなかったが、最近では多くの人が着物と一緒に着ると教えてくれた。高崎山で野猿たちも見て、お父さんが趣味としているヨットに乗せてくださり、初めてヨットに乗ってみた。また、初めて日本の回転寿司屋に行ってみたが、韓国と違ってタブレットで寿司を注文する方式も不思議だった。

ホストファミリーとの最後の日には、友達が韓国語で書いてくれた手紙を読んで感動して涙が出た。お母さんは、家族と一緒に分けて食べるようにと伝統菓子をプレゼントしてくれた。一緒に過ごしたのは、わずか3日なのに、これまで会話もたくさんして思い出もたくさん作ったためか、別れるのがとても残念で悲しかった。ホストファミリーと別れてから、一緒に九州体験学習に参加した済州のメンバーと再会し、これまでことについてお互いに話し合った。みんなが新しい経験をたくさんしながら、楽しい時間を過ごしたようで、聞くだけでも楽しかった。夕方には、カラオケに初めて行って、ゲームセンターにも行ったが、ガチャポンがどこに行ってもあるのが、とても不思議だった。

次の日には、かまど地獄というところに行ったが、日本では昔、熱い温泉から鬼が出るという言い伝えがあったという話を聞いた。その話を聞いて色々な温泉を見て回ると、ぐつぐつ沸いている様子が本当に鬼が出てきそうだった。そして温泉の売店で卵とプリンを食べたが、日本にはコンビニにも寿司屋にもラーメン屋にも、さらには温泉にもプリンがあるのを見て、プリンに本気の国だと思うようになった。かまど地獄を見て回って、APU大学見学に行ったが、日本の大学に留学する考えがあった私にとっては、本当に良い経験だった。見学をしながら学習施設、寮、食堂を見て回り、茶道体験をして説明会も聞いたが、本当に役に立った。

その次の日には、東明高校に見学に行ったが、普段から日本の高校に対するロマンがあったからであろうか、とてもおもしろかった。ただ学校を見て回るだけでなく、講堂で日本の学生たちと質問を交わしながら話し合い、体育と書道、英語の授業を実際に受けて体験した。日本の学校では、一週間に一度、書道の授業をすることを初めて知ったが、みんな漢字がとてもきれいで驚いた。日本の制服も近くでよく見るのは、今回が初めてだったが、とても可愛いと思った。しかし、日本の学生たちは、韓国の制服がもっと素敵だと言ってくれた。英語の授業の時は、隣のパートナーと英語で自己紹介をする時間があったが、日本人と韓国人が英語で会話すると思うと、すごく変わった経験のようで面白かった。休み時間には、ホームステイをした友達ともまた会って嬉しくあいさつした。初めて会う韓国の学生なのに温かく迎えてくれて、先に声もかけてくれて本当に感謝し、おかげで韓国と日本の学校の違いをたくさん感じながら良い思い出を作ることができた。東明高校で会った友達とは、今もInstagramでやりとりを交わしている。

日本語スピーチ大会を初めて知った時は、ここまでいい経験ができるとは想像もできなかったが、7日間夢のような経験をして、入賞するために台本の練習と発表の練習を頑張ってきたと思った。日本語スピーチ大会で、経験の重要性について発表をしたが、その発表の結果、本当に大切な経験をすることができた。日本に純粋な観光を目的で来ていたとしたら、日本の家庭の雰囲気、家の構造、学校の雰囲気、日本人が感じる韓国と日本の違いについて、このように詳しく知ることはできなかったはずだ。おかげで、日本語に対する自信もつき、日本留学についてより深く考えることができる時間になった。

## ✚ 済州外国語高校2年 ファン・ユギョンさん

私とともに九州体験学習に参加したメンバーは、済州空港から金海空港を経由して福岡空港に到着した。事前に案内された通り、visit japan web で QR コードを準備して行ったため、問題なく入国することができた。友達と荷物を受取り、外に出ると、以前にご挨拶したことのある玲奈さんが待っていらっしやう。私たちは挨拶を交わし、空港のコンビニでおやつを買った後、準備していただいた車で移動した。車の中で、九州体験学習の説明を聞き、K-POP と J-POP の歌を交代で聞きながら歓迎会の会場に向かった。韓国とは違う風景を眺めながら、おやつを食べ、寝て起きると、食堂に着いた時には外が暗くなっていた。食堂で九州体験学習を準備してくださった関係者の方々と、ホームステイ先のご家族の皆さんにお会いした。3泊4日間、私と一緒に過ごして下さる小野さんご一家と一緒に座って話を交わした。まだごちなさを感じながらも挨拶し、お互いを何と呼べばいいのかを話し、お互いの自己紹介もした。ごちなく感じたのも束の間、小野さんご一家と私は楽しく話を交わしながら、楽しい夕食を終えた。その後は、韓国から一緒に訪日した友達と別れて、各自のホストファミリーとのホームステイが始まった。私が、小野さんご一家と一番初めにしたことは、スターバックスに行ってドリンクを飲みながら食堂でできなかった話を交わすことだった。私は、私の家族を紹介して、韓国の高校やアイドル文化について説明してあげた。その後は、DVD レンタルショップに行き、日本映画のDVDを借りて、1日に1本ずつ見ることを約束した。そうして私は、3泊を過ごす小野さんの家に向かった。部屋に荷物を置き、私が準備した韓国のプレゼントを渡した。大したものではなかったが、喜んで下さり、私も嬉しかった。私たちは皆、居間に置かれたこたつを囲んで座った。アニメや映画でしか見たことのないこたつを実際に見ると不思議だった。最初、こたつの中に入ったときは、思ったよりあまり暖かくないと感じたが、ホームステイの最後にはこたつから出たくないと思うほど慣れた。

ホームステイの3泊4日間、小野さんご一家は、私により多くのことを体験させようと、本当に努力してくださった。私は、その努力にとっても感謝している。私は、昼は観光をして、夜は家に帰って、日本の家庭文化を体験した。私は、ホームステイの期間中、小野さんご一家と一緒に神社、湯布院、遊園地、ハーモニーランドなど、大分のあちこちを観光した。家では、こたつを囲んで話しながら映画を見たり着物を着てみたりした。鈴夏に手伝ってもらって着た着物は、本当に不思議だった。日本では、神社への参拝や式典への参列の際に着物を着ると聞いて、韓服とは見た目以外にもいろんなところで違いがあると感じた。その後、我々は、お互いの制服を交換して着てみたりもした。二人ともお互いの国の制服を着てみたいと思ったからだ。それで、私は、鈴夏の東明高校の制服を、鈴夏は、私の済州外国語高校の制服を着た。生徒たちは学校で定められた制服を着るという共通点があったが、同じ制服でも色々な違いが感じられた。服そのものにも様々な違いがあったが、最も大きな違いは、制服文化だった。日本の制服を直接着てみて、それについて鈴夏と話をすると、韓国の学生たちの方が、日本の学生たちより、もっと自由に制服を着ていることが分かった。また、日本では、制服だけでなく、いろんな職種でユニフォームを着用することで所属意識を感じているということを知った。

3泊4日のホームステイの期間の締めくくりとして小野さんご一家と私は、うみたまごを訪れた。3日間離れていた友達と再会し、またそれぞれの家族と水族館を見物した。水族館は、日本でデートの必須コースだと以前に聞いたことがあるが、日本の水族館に来てみたら、その理由が分かった。韓国の水族館との違いは、魚の種類や魚の数については変わらないと感じた。しかし、小野さんご一家と一緒に観覧したイルカショーとアザラシショーは、本当に素晴らしいショーの間、ずっと動画を撮った。水族館の観覧を終えた我々は、最後にみんなで写真を撮った。後で写真を受け取ったときには涙がにじんだ。最後の別れにプレゼントと手紙をやり取りし、別れの挨拶をした。それぞれのホストファミリーと別れた私と友達は、車が去る間、ずっと後ろを向いて家族を眺めた。私と友達は、お互いに泣かないでと言いつつも、少し涙を拭いた。その後、私たちは、玲奈さんと話をしながらホテルに向かった。ホテルに荷物を預けてから出かけた我々は、日本のカラオケに行った。不思議だったのは、カラオケの中で食べ物頼んで食べられることと、カラオケの機械をタブレットで操作することだった。私たちは、カラオケで日本の歌を歌ってみた。歌っていたら、時間があっという間に過ぎ、夕食を食べてゲームセンターで少し時間を過ごした後は、ホテルに戻った。

玲奈さん、そして友達と合流してからは、九州体験学習プログラムの日程通りに動いた。別府にあるかまど地獄や神社を訪ねて観光したり、APU 大学キャンパスツアーに参加したりした。体験学習に参加していた友達の中で、日本留学を準備していたチョン・スンユンさんは、APU 大学に関心を示した。翌日訪れた東明高校では、本当に楽しい経験をした。東明高校で、先日お別れしたホームステイの家族である、鈴夏と愛華に会った。日本の高校生の中に挟まれた韓国の学生たちは、最初は浮いているように見えたが、結局、私たちは同じ年頃の友達に過ぎなかった。東明高校の生徒たち皆が親切にしてくれて、またお互いの関心事を話しているうちにすぐ親しくなった。韓国と似ているように見えるが、確かに違う教室と授業、いずれも貴重な経験だった。東明高校で親しくなった友達とインスタ ID を交換しながら、韓国に帰っても連絡することを約束した。最後まで見送りに来てくれた友達に、私たちは、韓国の制服のボタンをプレゼントしたりもした。

最終日、私たちは皆、残念な気持ちで韓国に帰る飛行機に乗った。長いといえば長く、短いといえば短い6泊7日間の九州体験学習が終わった。私は、今回の体験学習を通じて本当に多くのことを学んだ。この体験学習を通じて日本の家庭文化、衣食住文化、学校文化、エンターテイメントなど、本当に多くの文化を体験することができた。体で直接体験した文化は、本で学んだこととは比べ物にならない。普通の旅行では絶対にできない貴重な経験だった。どんな旅行でも、これより近くで日本を眺めることはできないだろう。また機会があれば、ぜひもう一度大分を訪問したい。